

令和 8 年 度

第 1 ステージ研修
(2 年 目 研 修)
研修の手引き

福井県教育委員会

勤務校	職名
氏名	

目 次

1	実施要項	1
2	授業実践研究	4
3	各研修の受講	5
	授業実践研究Ⅱ、学級経営①	5
	教科別研修Ⅱおよび特別支援教育研修	6
	人権教育	7
	授業実践研究の共有	7
	授業実践研究Ⅲ	7
	ボランティア活動	8
4	提出書類等	9
	校外研修の記録・報告書	9
	諸届	9
	レポート	10
	○福井県教員育成指標	11

研修についての問合せ先

○福井県教育総合研究所 教職研修センター

TEL(0776)58-2160

E-mail kyousyoku@pref.fukui.lg.jp

※メールによるお問い合わせの場合は、件名を「2年目研修問合せ」としてください。

○福井県特別支援教育センター

TEL(0776)53-6574

E-mail tokuse03@pref.fukui.lg.jp

○福井県教育庁嶺南教育事務所

TEL(0770)56-1302

1 実施要項

1 目的

主体的・対話的で深い学びを実践するための指導力の向上を図るとともに、多様なものの見方や考え方を身に付ける。

2 実施主体

福井県教育委員会

3 実施期間

令和8年度の1年間

4 対象者

- (1) 令和7年度に採用された小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の教員で、初任者研修を受講した者とする。ただし、養護教諭および栄養教諭は除く。
- (2) 当該年度に長期の休暇（休業）を取得することがすでに明らかな場合は、原則として休暇（休業）明けに受講すること。なお、受講年度途中で長期の休暇（休業）を取得することになった場合は、受講可能な研修を受講し、残りは休暇（休業）明けに受講することとする。いずれの場合も、休暇（休業）からの復帰時期によっては、翌年度の受講となる。

5 実施計画

【小学校】

コードNo.	育成指標分類	研修名（研修内容）	実施日時・会場		備考
—	—	「令和の日本型学校教育」を担う 教師の学び 研修ガイダンス			
211	学習指導	授業実践研究Ⅱ （授業実践研究の意義と方法）	<嶺北> 4月20日(月) 9:30～16:00 教育総合研究所	<嶺南> 4月22日(水) 9:30～16:00 嶺南教育事務所	p. 5 参照
221	素養 生徒指導	学級運営① ※事前視聴 通信型研修 G203 「保護者との関係づくり」			
214	学習指導	指導と評価の一体化	6月24日(水) 9:30～16:30 教育総合研究所		—
254	ICT等の利活用	ICTタブレット活用			
213	学習指導	教科別研修Ⅱ	各自半日分の研修を選択・申込		p. 6 参照
N230	素養	人権教育	9月18日(金)までに受講		p. 7 参照

261a	素養 学習指導 ふくいのか	授業実践研究の共有 (初任者・2年目・3年目の クロスセッション)	下記8日のうち1日選択 10月14日(水) 嶺南教育事務所 15日(木) 教育総合研究所 20日(火) あいばーく今立(越前市) 22日(木) 教育総合研究所 29日(木) 嶺南教育事務所 30日(金) 教育総合研究所 11月5日(木) 教育総合研究所 6日(金) 教育総合研究所 いずれも13:30~16:30	p.7 参照 別途 通知
212	素養 学習指導 ふくいのか	授業実践研究Ⅲ (授業実践研究の振り返りと今後の 進め方)	下記3日のうち1日選択 1月22日(金) 26日(火) 27日(水) いずれも13:30~16:30 オンライン ※特別支援学級担当者は 原則として1月26日(火)	p.7 参照 別途 通知
291	素養 ふくいのか	ボランティア活動	各自計画・実施	p.8 参照

【中学校】

コードNo.	育成指標分類	研修名(研修内容)	実施日時・会場		備考
—	—	「令和の日本型学校教育」を担う 教師の学び 研修ガイダンス			
211	学習指導	授業実践研究Ⅱ (授業実践研究の意義と方法)	<嶺北> 4月28日(火) 9:30~16:00 教育総合研究所	<嶺南> 4月22日(水) 9:30~16:00 嶺南教育事務所	p.5 参照
221	素養 生徒指導	学級運営① ※事前視聴 通信型研修 G203 「保護者との関係づくり」			
254	ICT等の利活用	ICTタブレット活用	6月24日(水) 13:30~16:30 オンライン		—
214	学習指導	指導と評価の一体化	11月27日(金) 9:30~16:00 教育総合研究所		—
N230	素養	人権教育	9月18日(金)までに受講		p.7 参照
261a	素養 学習指導 ふくいのか	授業実践研究の共有 (初任者・2年目・3年目の クロスセッション)	下記8日のうち1日選択 10月14日(水) 嶺南教育事務所 15日(木) 教育総合研究所 20日(火) あいばーく今立(越前市) 22日(木) 教育総合研究所 29日(木) 嶺南教育事務所 30日(金) 教育総合研究所 11月5日(木) 教育総合研究所 6日(金) 教育総合研究所 いずれも13:30~16:30		p.7 参照 別途 通知

212	素養 学習指導 ふくいのか	授業実践研究Ⅲ (授業実践研究の振り返りと今後の 進め方)	下記3日のうち1日選択 1月22日(金) 26日(火) 27日(水) いずれも13:30~16:30 オンライン ※特別支援学級担当者は 原則として1月26日(火)	p.7 参照 別途 通知
291	素養 ふくいのか	ボランティア活動	各自計画・実施	p.8 参照

【高等学校】

コードNo.	育成指標分類	研修名(研修内容)	実施日時・会場	備考
—	—	「令和の日本型学校教育」を担う 教師の学び 研修ガイダンス		
211	学習指導	授業実践研究Ⅱ (授業実践研究の意義と方法)	4月28日(火) 9:30~16:00 教育総合研究所	p.5 参照
221	素養 生徒指導	学級運営① ※事前視聴 通信型研修 G203 「保護者との関係づくり」		
254	ICT等の利活用	ICTタブレット活用	6月24日(水) 13:30~16:30 オンライン	—
214	学習指導	指導と評価の一体化	11月27日(金) 9:30~16:00 教育総合研究所	—
N230	素養	人権教育	9月18日(金)までに受講	p.7 参照
261a	素養 学習指導 ふくいのか	授業実践研究の共有 (初任者・2年目・3年目の クロスセッション)	下記8日のうち1日選択 10月14日(水) 嶺南教育事務所 15日(木) 教育総合研究所 20日(火) あいばーく今立(越前市) 22日(木) 教育総合研究所 29日(木) 嶺南教育事務所 30日(金) 教育総合研究所 11月5日(木) 教育総合研究所 6日(金) 教育総合研究所 いずれも13:30~16:30	p.7 参照 別途 通知
212	素養 学習指導 ふくいのか	授業実践研究Ⅲ (授業実践研究の振り返りと今後の 進め方)	下記3日のうち1日選択 1月22日(金) 26日(火) 27日(水) いずれも13:30~16:30 オンライン	p.7 参照 別途 通知
291	素養 ふくいのか	ボランティア活動	各自計画・実施	p.8 参照

【特別支援学校】

コード№	育成指標分類	研修名（研修内容）	実施日時・会場	備考
—	—	「令和の日本型学校教育」を担う教師の学び 研修ガイダンス		
211	学習指導	授業実践研究Ⅱ （授業実践研究の意義と方法）	4月28日（火） 9:30～16:00 教育総合研究所	p.5 参照
221	素養 生徒指導	学級運営① ※事前視聴 通信型研修 G203 「保護者との関係づくり」		
254	I C T等の利活用	I C Tタブレット活用	6月24日（水） 13:30～16:30 オンライン	—
282	生徒指導	特別支援教育研修	各自選択・申込	p.6 参照
N230	素養	人権教育	9月18日（金）までに受講	p.7 参照
261a	素養 学習指導 特別な配慮や支援 ふくいの力	授業実践研究の共有 （初任者・2年目・3年目の クロスセッション）	下記3日のうち1日選択 10月22日（木）特別支援教育センター 29日（木）特別支援教育センター 11月5日（木）特別支援教育センター いずれも13:30～16:30	p.7 参照 別途 通知
281	素養 学習指導 特別な配慮や支援 ふくいの力	授業実践研究Ⅲ （授業実践研究の振り返りと今後の 進め方）	1月27日（水） 13:30～16:30 オンライン	p.7 参照 別途 通知
291	素養 ふくいの力	ボランティア活動	各自計画・実施	p.8 参照

6 その他

本研修は、全国教員研修プラットフォーム「P l a n t」（以下、「P l a n t」という）にて受講の管理、運営（研修資料のダウンロード、レポートの提出、各種研修の申込など）を行う。詳しくは、p.5 「**3**各研修の受講」を参照すること。

2 授業実践研究

授業力向上のためには、実践と省察を継続して行う必要がある。そこで、2年目研修では初任時の成果と課題を踏まえ、各自が「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れたテーマで授業実践研究に取り組むことを研修の中心とする。

[授業実践研究の進め方]

授業実践を記録することにより、指導の妥当性や課題を検討することができる。それをもとに授業の改善を繰り返すことで、教員の力量は高められていく。こうした年間を通した取組みが、3年目研修の授業実践研究につながり、学び続ける教員の土台となる。

まずは4月の「授業実践研究Ⅱ（授業実践研究の意義と方法）」で、各自が授業実践研究の概要を持ち寄り、グループ協議を経てテーマと研究のねらいを明確にする。その上で、授業実践の概

要を完成させる。

各学校での実践では、児童・生徒の発言や行動などの事実、それに対する教員の対応等を記録し、省察を行う。このサイクルを繰り返し、10、11月の「授業実践研究の共有(クロスセッション)」で発表し、グループ協議を通して実践研究や思いを共有することで、幅広い学びを獲得する。この年間を通した取組みの成果と課題を、1月の「授業実践研究の共有Ⅲ(授業実践研究の振り返りと今後の進め方)」で共有し、3年目の実践につなげることになる。

3 各研修の受講

[研修資料のダウンロードについて]

研修資料は、研修日の2日前から教育総合研究所ホームページ→「P l a n t」→「研修申込状況」→「【2年目研修】令和8年度2年目研修」→「ダウンロードファイル一覧」よりダウンロードが可能となる。当日は、印刷して持参するか、各自の端末で閲覧できるようにしておくこと。
※オンラインによる研修については、研修資料に Zoom 情報を掲載する。

1 授業実践研究Ⅱ、学級経営①(コードNo.211、221)

(1) 期日・会場

嶺北小学校勤務者	4月20日(月)	教育総合研究所
嶺南小・中学校勤務者	4月22日(水)	嶺南教育事務所
嶺北中学校、高等学校、特別支援学校勤務者	4月28日(火)	教育総合研究所

(2) 当日の日程

受付 9:00~9:20 研修 9:30~16:00

(3) 当日の準備

- ・名札
 - ・第1ステージ研修(2年目研修)の手引き(本誌)
 - ・レポート「授業実践研究の概要」7部(両面印刷)
 - ・「令和7年度 初任者研修 教育実践研究 最終報告レポート集」(特別支援学校のみ)
- ※レポートの詳細、提出については、p.9「4提出書類等」を参照すること。

(4) 授業実践研究に関する調査

グループ協議の班編成のため、担当学年等について次のURLまたは二次元コードから回答すること。

[URL] <https://forms.office.com/r/jzD3hJi56B>

【回答締切】令和8年4月8日(水)



(5) 通信型研修 G203「保護者との関係づくり」の視聴

教育総合研究所ホームページ「P l a n t」→「研修検索」より選択し、4月15日(水)までに受講すること。

※受講方法の詳細は「P l a n t」TOP画面の「お知らせ通知受信一覧」にある「研修に際して」を参照

2 教科別研修Ⅱおよび特別支援教育研修

【小学校】教科別研修Ⅱ（コードNo.213）

教科別研修Ⅱは、「専門性向上研修」小学校対象の教科に関する講座を1つ選択し、受講すること。

専門性向上研修「学習」（いずれも半日講座）

- ・C003 小学校国語科
- ・C103 小学校社会科
- ・C101 社会科(地理分野)
- ・C203 小学校算数科
- ・C303 小学校理科
- ・C401 小学校音楽科
- ・C431 小学校図画工作科・中学校美術科
- ・C501 家庭科
- ・C801 小・中学校道徳科①
- ・C803 小・中学校道徳科②
- ・C804 生活科

<申込方法>

教育総合研究所ホームページ → 「P l a n t」より申し込む。

※受講方法の詳細は「P l a n t」TOP画面の「お知らせ通知受信一覧」にある「研修に際して」を参照

<申込期間>

4月20日（月）～（「生活科」のみ4月1日～）研修実施1週間前

※各講座には募集定員があるため、定員に達した場合は、空いている講座を選択すること。

<新任特別支援学級担任教員研修（以下、新特担研修）での代替>

今年度、特別支援教育センター主催の新特担研修を受講する者は、この「教科別研修Ⅱ」を新特担研修で代替することができる。代替する場合は、新特担研修の第1研修～第5研修および、選択研修から1つを代替として各自指定し、研修後は、「研修の記録・報告書」に振り返りを記入する。

※新特担研修の詳細については、「新任特別支援学級担任教員研修実施要項」を参照すること。（特別支援教育センターから別途各学校に配付）

【特別支援学校】特別支援教育研修（コードNo.282）

特別支援教育研修は、「専門性向上研修」特別支援教育に関する講座を1つ選択し、受講すること。

専門性向上研修「特別支援教育」

- ・No.1 自閉症支援
- ・No.2 特支校・特学
- ・No.3 聴覚障がい
- ・No.4 福祉・家庭（保護者支援）
- ・No.5 中学校・高校
- ・No.6 授業づくり・教材
- ・No.7 特担・通級担／小中
- ・No.8 思春期・青年期
- ・No.9 読み書き

※内容の詳細は特別支援教育センターのホームページを参照

<申込方法>

教育総合研究所ホームページ → 「P l a n t」より申し込む。

※受講方法の詳細は「P l a n t」TOP画面の「お知らせ通知受信一覧」にある「研修に際して」を参照

<申込期間> 4月20日（月）～6月25日（木）

3 人権教育（コードNo.N230）

<受講方法>

- ・教育総合研究所ホームページ「P l a n t」→「研修申込状況」→「【2年目研修】令和8年度2年目研修」→「URL」にある「人権教育」より動画を視聴する。
- ・視聴後、教育総合研究所ホームページ「P l a n t」→「研修申込状況」→「【2年目研修】令和8年度2年目研修」→「テスト一覧」より「人権教育テスト」を受けて受講完了となる。
- ・受講完了後、「振り返り」を「校外研修の記録・報告書」（様式5）の【概要・感想・成果の活用等】に入力する。

<受講期間>

8月下旬～9月18日（金）

※視聴可能となる日時は「P l a n t」の「お知らせ通知受信一覧」にて通知する。

4 授業実践研究の共有（初任者・2年目・3年目のクロスセッション コードNo.261a）

- (1) 受講希望日の調査 【回答締切】令和8年5月29日（金）

受講希望日（第1～第3希望）について、事前に行事予定等を確認し、管理職と相談した上で次のURLまたは二次元コードから回答すること。

[URL] <https://forms.office.com/r/2lzaelQmez>



なお、受講決定日は、教育総合研究所から別途文書で通知する。

- (2) 当日の日程

受付 13:00～13:20 研修 13:30～16:30

- (3) 当日の準備物

No.261a 授業実践研究の共有：レポート「授業実践研究（中間報告）」7部

※レポートの詳細、提出については、p.9「**4**提出書類等」を参照すること。

5 授業実践研究Ⅲ（小中高コードNo.212、特別支援コードNo.281）

- (1) 受講希望日の調査について 【回答締切】令和8年9月30日（水）

受講希望日（第1希望、第2希望）について、次のURLまたは二次元コードから回答すること。

※事前に行事予定等を確認し、管理職と相談した上で回答すること。

※小・中学校特別支援学級担当者は、原則として、令和9年1月26日（火）と回答すること。

※特別支援学校勤務者は、原則として、令和9年1月27日（水）と回答すること。

[URL] <https://forms.office.com/r/sJEzRCSJxP>



なお、受講決定日は、教育総合研究所から別途文書で通知する。

(2) 当日の日程 (Zoom によるオンライン研修)

受付 (接続) 13:00~13:20 研修 13:30~16:30

(3) 当日の準備物

No. 212・281 授業実践研究Ⅲ：レポート「授業実践研究 (最終報告)」

※当日はオンライン上で画面共有する。

※レポートの詳細、提出については、p. 9 「**4**提出書類等」を参照すること。

6 ボランティア活動 (コードNo.291)

(1) 目的

教職以外の非営利団体による様々なボランティア活動を計画・実施することを通して、社会に主体的に参画し、地域との連携・協働のネットワークを形成するとともに、視野を広げ多様な考え方を知り、一般市民としての素養を養う。また、活動から学んだことを学校生活の中で活かしていくことで教員としての力量向上を図る。

(2) 実施期間

上記の目的に沿った活動 (3時間程度) を計画し、冬期休業終了までに実施すること。

(3) 実施施設・機関・団体 (以下「活動先」) の選定

活動先の選定については、以下のことに留意して行うこととする。

- ・教員の活動先として、体験内容等が目的に照らして適切であること。
- ・活動の目的を理解し、積極的に受け入れていただけること。
- ・受講者の生活地域や勤務校の近隣地域で実施される奉仕活動等への参加が好ましい。

(4) 計画・実施における手順

- ①対象者は、管理職と相談の上、活動先と連絡をとり、趣旨説明と受け入れの打診をする。
- ②学校長は、ボランティア活動の意義を踏まえ、ボランティア活動の許可をする。
- ③活動先へ、依頼文書 (各学校の様式) を送る。
- ④活動先へ出向いて、挨拶と活動についての確認を行う。
- ⑤確認後、研修日時、研修先、研修内容を教育総合研究所ホームページ → 「P l a n t」 → 「研修申込状況」 → 「【2年目研修】令和8年度2年目研修」 → 「課題・アンケート一覧」から回答する。
- ⑥ボランティア活動を実施する。
※活動先への礼状は、学校裁量とする。
- ⑦活動後、1週間以内に「ボランティア活動報告書」 (様式4) を提出する。

<様式>

教育総合研究所ホームページ「教員研修」 → 「基本研修、職務研修」よりダウンロードする。

<記入上の注意>

活動日が複数日にわたる場合は、「活動期日 活動時間」欄に下記のように記入する。

(記入例) 8月3日 (月) 9:30~11:00、8月4日 (火) 15:00~16:30

<提出方法>

教育総合研究所ホームページ → 「P l a n t」 → 「研修申込状況」 → 「【2年目研修】令和8年度2年目研修」 → 「課題・アンケート一覧」から提出する。

ファイル形式：PDF

ファイル名：職員番号【勤務校略称_氏名 (フルネーム)】2年目研_ボランティア
(例) 259999【福井小_春江太郎】2年目研_ボランティア

<締切>令和9年1月15日 (金)

4 提出書類等

1 校外研修の記録・報告書（様式5）

様式は教育総合研究所ホームページ「教員研修」→「基本研修、職務研修」からダウンロードし、下記の手順で作成する。（作成したものは必ず管理職と共有すること。）

(1) 「校外研修の記録・報告書」の作成

毎回の研修終了後に受講日および会場、概要・感想・成果の活用等を入力する。

ボランティア活動は、活動後に活動日および研修先を入力する。その他、特記事項がある場合は入力する。

※実施の方法や実施期間は p. 8 「6 ボランティア活動」を参照。

(2) 提出方法

1年間の研修終了後、下記の〔提出経路〕に従い管理職を通じてメールにて提出する。

※延期願を提出した研修については、該当研修の欄に「次年度に延期」と入力する。

※年度途中で研修を受講できなくなった場合は、その時点での記録・報告書のデータを提出する。

ファイル形式：PDF

ファイル名：職員番号【勤務校略称_氏名（フルネーム）】2年目研_記録・報告書
（例）259999【福井小_春江太郎】2年目研_記録・報告書

締切：市町小・中学校・・・・・・・・・・・・・・・・令和9年2月26日（金）

高等学校、県立中学校・・・・・・・・・・・・・・・・令和9年3月5日（金）

特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・令和9年2月26日（金）

2 諸届

研修を欠席、延期する場合は、事前に管理職を通じて担当機関に問い合わせた上で、必要に応じて校長が次の欠席届または延期願を作成し、下記の提出経路のとおりデータをメールにて提出する。

欠席届（共通様式1）・・・年度内に代替研修の受講が可能な場合
延期願（共通様式2）・・・受講が次年度以降になる場合

様式：教育総合研究所ホームページ「教員研修」→「欠席届、延期願」からダウンロード

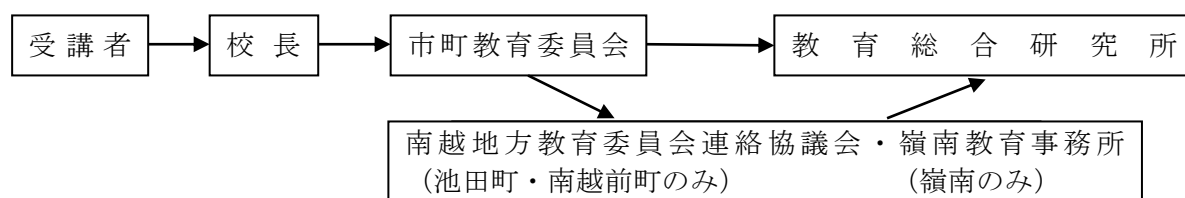
ファイル形式：PDF

ファイル名：【勤務校略称_氏名（フルネーム）】欠席届または延期願

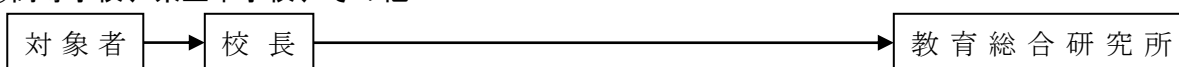
※特別支援教育センターに提出する場合は、宛名に「特別支援教育センター所長」も併記する。

〔提出経路〕

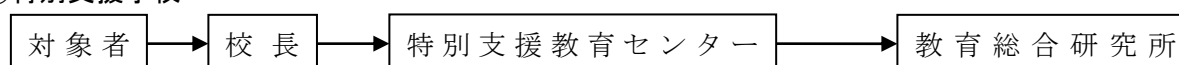
○市町小・中学校



○高等学校、県立中学校、その他



○特別支援学校



教育総合研究所 教職研修センター	E-mail	kyousyoku@pref.fukui.lg.jp
特別支援教育センター	E-mail	tokuse03@pref.fukui.lg.jp

※メール送信の際は、件名に「2年目研修」を表記してください。

(例) 「2年目研修」欠席届【福井小_春江太郎】

3 レポート

様式は教育総合研究所ホームページ「教員研修」→「基本研修、職務研修」よりダウンロードする。

- (1) 「授業実践研究の概要」(様式1) A4判たて、1ページ程度
 コードNo.211のグループ協議時に7部持参し、5月15日(金)までに下記のとおり提出する。
 <提出方法>
 教育総合研究所ホームページ → 「P l a n t」 → 「研修申込状況」 → 「【2年目研修】令和8年度2年目研修」 → 「課題・アンケート一覧」から提出する。
 ※詳しくは「P l a n t」TOP画面の「お知らせ通知受信一覧」にある「研修に際して」を参照
 ファイル形式：PDF
 ファイル名：職員番号【勤務校略称_氏名(フルネーム)】概要
 (例) 259999【福井小_春江太郎】概要
- (2) 「授業実践研究(中間報告)」(様式2) A4判たて、2ページ程度
 ・10月2日(金)までに(1)と同様の提出方法で提出する。
 ファイル形式：PDF
 ファイル名：職員番号【勤務校略称_氏名(フルネーム)】中間報告
 ・コードNo.261a「授業実践研究の共有」の際に7部持参する。
- (3) 「授業実践研究(最終報告)」(様式3) A4判たて、3～5ページ
 ・コードNo.261a「授業実践研究の共有」におけるグループ協議での学びや11～1月の実践等を追記して作成する。
 ・コードNo.212 授業実践研究Ⅲ(特別支援学校はコードNo.281)の際に、オンライン上で画面共有する。
 ・受講後、1週間以内に(1)と同様の提出方法で提出する。
 ファイル形式：PDF
 ファイル名：職員番号【勤務校略称_氏名(フルネーム)】最終報告

福井の教育が目指す育てたい人間像

○個性を発揮し、自らが思い描く人生を切り拓くために挑戦し続ける人

○多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人

○ふるさとや自然を愛し、いつでもどこでも社会や地域に貢献する人



福井が求める教師像

●校種・教科等に関する専門的知識・実践的技能を持った人

●専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、自立した社会人としての良識や幅広い視野を持った人

●子どもたちはもとより、同僚や家庭、地域社会と円滑な人間関係を築き、課題に対して臨機応変に対応できる人

●教育に対する情熱・使命感に燃え、常に学び続ける向上心を持った人

福井県教員育成指標

教諭		福井県が求める採用時の姿	第1ステージ 教員としての基盤を固める	第2ステージ 中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する	第3ステージ 経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする	管理職	トップリーダーとして教育活動を推進する		
資質・能力に関する観点						資質・能力に関する観点			
素養	教育的愛情 使命感 責任感	・子どものウェルビーイングを高め、豊かな人間性を育む熱意 ・持続可能な社会の創り手を育成する使命感、責任感 ・子どもの命を守る安全教育・危機管理の理解				素養	教育者としての資質	・教育者としての素養を磨き、教職に関する見識を高める姿勢 ・学校教育の持続的改善に向けた保護者や地域、関係機関との信頼関係の構築	
	倫理観 人間性 社会性	・服務規律・法令の理解と遵守 ・確かな人権意識と豊かな人間性 ・多様性への理解と円滑なコミュニケーションによる良好な人間関係の構築					マネジメント能力	・明確な教育理念、状況に応じた的確な判断、迅速で合理的な決断 ・学校教育を取り巻く環境の変化への適応 ・教育資源の開発・活用	
	学び続ける力 探求心	・学校現場の実態や教育改革の動向の把握、社会の変化を前向きに受け止めよりよい教育活動を模索する態度 ・自らの実践を省察し、探究心をもって挑戦し続ける姿勢 ・学びの機会への積極的参加による新しい知識や多様な価値観の獲得と得意分野や強みの伸長					アセスメント能力	・内外環境に関する情報の収集・整理、データや理論に基づいた分析、関係者との共有 ・多様な人材の能力や特徴、価値観の理解と公正な評価	
	業務改善	・効率的な時間管理に対する意識	・精選・改善・創意工夫による効率的・効果的な業務遂行と勤務時間の適正な管理 ・心身の健康、モチベーションを高めるワーク・ライフ・バランスの実現				ファシリテーション能力	・多様な専門性等を有する人材が円滑にコミュニケーションを取れる心理的安全性の確保 ・保護者や地域、関係機関や産業界等との折衝・協働による相互作用の促進	
	同僚性	・支え合い高め合う同僚性への理解 ・OJTや校内研修の意義の理解	・協働的活動への積極的参加による同僚性の構築 ・組織における自らの役割の理解と行動	・支え合い高め合う同僚性の構築、学び合う文化の醸成 ・OJTや校内研修の推進、若手教員への助言	・支え合い高め合う同僚性、学び合う組織づくりを牽引 ・組織マネジメントへの主体的な参画				
	連携・協働	・子どもや保護者と教職員の相互理解の重要性の理解	・保護者や地域との信頼関係の構築 ・学校内外の多様な人々との連携・協働、関係機関との連携を通じた課題解決への姿勢						
学習指導	教科等の専門性	・主体的・対話的で深い学びへの理解 ・子どもの資質・能力の育成に資する教科等に関する専門性		・教科等の見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びの実現 ・教科等に関する専門性の向上と学習者中心の授業の創造		学校経営者としての専門性	経営方針提示	・学校の置かれた状況や教育課題の把握と、明確な経営ビジョンの提示 ・経営ビジョンの教職員との共有、地域や保護者への発信による連携・協働の促進	
	授業力	・子どもの多様な特性や学習状況に応じた授業展開への理解 ・探究的な学習の過程に即した学習活動・授業改善への理解	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた発問や視覚化等の工夫 ・子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての授業実践力の向上 ・指導と評価の一体化に基づく授業改善	・子どもの学びを見取り、引き出し、つなぐ、ファシリテーション力 ・省察的実践サイクルの構築による探究的な学びの推進と授業実践力の向上	・子どもの主体性を尊重し、子ども同士の考えをつなぎ、子どもとともに作り上げる授業の工夫 ・省察と対話による授業実践力の向上、継続的な授業改善を牽引		教育活動の推進	・教育課程および教育活動の評価・改善と組織的な学校運営による特色ある学校づくり ・多様な子どもに対する個別最適な支援の工夫、多様な教育的ニーズへの組織的対応	
	カリキュラム・マネジメント	・横断的・総合的な学習で育成される子どもの資質・能力の理解 ・社会や地域とつなげた教育活動の意義への理解	・学校の教育目標の把握とめざす子ども像を意識した授業づくり ・社会や地域とつなげた教育活動への参画	・学校の実態に応じた教科等横断的な視点での教育課程の評価・改善 ・社会や地域とつなげた特色ある教育活動の提案	・学校の実態に応じた教科等横断的な視点での組織的な教育活動を牽引 ・社会や地域とつなげる教育資源の開発・活用		組織づくり	・目標達成に向けた適切な校務分掌の設計、教職員の適性を生かした業務分担、役割の明確化 ・多様な専門性等を有する人材が強み等を生かして連携・協働できる体制構築の工夫 ・教師同士の学び合いを促進する環境整備・雰囲気づくり	
生徒指導	子どもの発達を支える働きかけ	・子ども一人ひとりのよさや可能性を伸ばす姿勢 ・認め合い励まし合い支え合う集団づくりと個別の子どもの状況に応じた配慮への理解	・子ども一人ひとりへの共感的理解とよさや可能性を伸ばす姿勢、子どもの自己指導能力の獲得を目指した支援 ・子ども一人ひとりが自己存在感を感じ、個性を発揮できる相互扶助的で共感的な人間関係の育成と集団づくり ・子ども一人ひとりの自己実現やキャリアデザイン力の育成を目指した教育活動の充実				働きがいと働きやすさの両立	・業務の適正化や勤務時間管理による子どもと向き合う時間の確保と教育者としての幸福感的向上 ・教職員のメンタルヘルス対策と労働安全衛生管理の充実、ワーク・ライフ・バランスの推進	
	課題の未然防止・早期発見 困難課題への対応	・課題未然防止教育の理解 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の理解	・課題未然防止教育に関する学校の方針の理解と実践 ・子どもの実情や背景の把握と報告・連絡・相談による組織的対応の姿勢	・組織的な課題未然防止教育の工夫と実践 ・子どもの実情や背景の把握と個別の課題に対応した援助・指導 ・報告・連絡・相談を通じた校内外のスタッフによるチームでの共通理解と対応	・変動する社会状況や子どもの心理状態の的確な把握と個別の実態に応じた援助・指導 ・一人ひとりの子どもに対する一貫性のある連携体制の整備と取組の推進	人材育成	・教職員の自律的な成長や中核となる人材の育成を意識した業務の割り当て、適正な評価と指導・助言 ・教職員の自律的な学びを促す校内研修の推進 ・対話に基づく教職員の意欲喚起とキャリアパスへの助言、一人ひとりに応じた研修等の受講奨励		
特別な配慮や	全ての子どもの安全・安心な居場所づくり	・子どもの多様な背景と学習上・生活上の困難への配慮の理解	・インクルーシブ教育の視点や異文化理解・多文化共生等の考えに基づき、多様性を認め合い支え合う安全・安心な風土の醸成 ・子ども一人ひとりの特性等の理解と共感的な関わり、学習上・生活上のつまづきや困難の早期発見と適切な援助・指導				学校安全・危機管理	・服務規律・法令遵守の教職員への啓発と徹底 ・様々な危機に対する未然防止策の策定による組織体制の整備 ・保護者・地域・関係機関との協力関係の構築	
ICT活用等	子どもの情報活用能力の育成	・子どもの情報活用能力育成の重要性の理解	・個別最適な学び・協働的な学びの実現による子どもの問題発見解決力・自己調整力の育成 ・子どもがデジタル社会の一員として責任をもって行動していく態度の醸成				財務管理	・学校経営方針に基づく予算編成と執行による教育環境の整備・充実 ・事務職員と連携した組織的で適正な執行管理	
ふくいの力	デジタル技術の活用	・ICTに関する基礎的な技能の習得 ・学校におけるデータ活用の意義の理解	・ICT活用指導力の向上とICTの特性や強みを活かした多様な学習形態や専門性の高い教育活動の実現 ・学習履歴や健康上・生徒指導上のデータ等の蓄積・利活用による学習支援・校務の効率化						
	引き出す教育・楽しむ教育	・福井の教育の特長の理解	・子ども一人ひとりの個性を「引き出す教育」の推進		・子どもが探究心を持ち、学びを「楽しむ教育」を進めるための教育活動の工夫				
	「ふるさと福井」の教育	・福井の産業・歴史・文化等への理解	・ふるさとへの理解を深め、愛着を持ち、継承発展しようとする子どもの育成		・子ども自身の「やりたいこと」と「福井の将来」を探究する学びの推進				
福井の教育の継承	・福井の教育をよりよくしていく心と態度	・幼・小・中・高の円滑な学びの接続による教育の推進		・学校内外の世代間交流や校種間交流による教員の学びの深化					

※ 資質・能力に関する6つの観点「素養」「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援」「ICT等の利活用」「ふくいの力」は相互に関連し合っている。